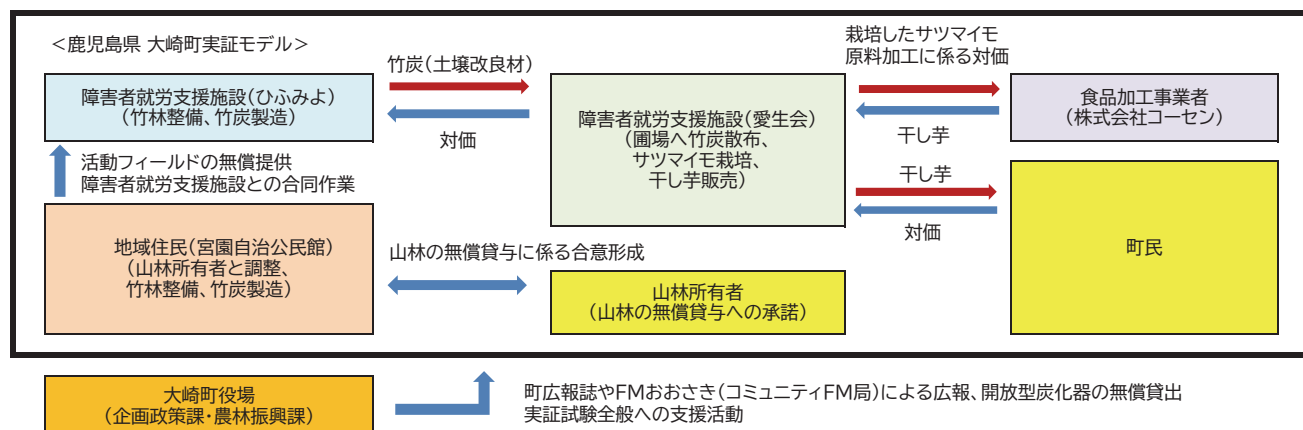




農林水産省は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を「ノウフク・アワード」として表彰し、全国への普及を推進しています。今般、ノウフク・アワード2024において、応募のあった205団体の中から、大崎町政策研究員（慶應義塾大学大学院研究員）の田中力氏に取り組んでいる『竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践』が「優秀賞」に選定されました。

この取り組みは、大崎町内の障がい者就労支援施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障がい者が放置竹林の整備や竹炭の製造をおこなうモデルを創出したもので、竹炭を土壌改良材として活用したサツマイモの加工により収益化を実現しています。



小さな町の絆が紡いだ結いの干しいも

愛生会の干しいも **結紡**

管理されず、荒廃した竹林が増えています。厄介者の竹を食材や素材として活かすことはできないか。

竹林整備や、竹炭・干しいもづくりが、人と人をつなぎ、そして結ぶ。人と竹の共生関係を築くことを私たちは目指しています。

